

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

Vol.60

2019.JUL.

NPO法人 長野都市経営研究所

発行/NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0834 長野市大字鶴賀御所町1289-1 丸本ビル2F TEL 026-235-7911 FAX 026-235-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail: nupri@nupri.or.jp

NUPRI定時総会

令和元年6月11日

14時30分～

ホテル国際21にて開催

去る6月11日、「第25回NUPRI定時総会」が、役員・会員あわせ50余名の出席により開催されました。

開会に先立ち、4月30日に亡くなられた前理事長の市川浩一郎氏のご冥福をお祈りし、黙祷が捧げられました。その後、新しく就任された市村次夫理事長のあいさつに続き、平成30年度の事業・決算報告と令和元年度の事業・予算計画案について各部会長より説明が行われ、各議案とも出席者の拍手を持って承認されました。

定時総会後の講演会では、日本サッカー協会相談役の川淵三郎氏が登壇。齒に衣着せぬ物言い、人気のある川淵氏だけに一般の聴講者も多く駆けつけ、その熱弁に耳を傾けました。続く懇親会では、ベテランと若手の新会員を交えて、長野市の将来像やNUPRIの活動について議論風発、賑やかな歓談の場となりました。

平成から令和へ、 四半世紀の活動を糧に 未来を見すえた躍動の年に

理事長あいさつ

■未来のNUPRI像を考える年に

市村次夫理事長

会員の皆様には、日頃よりNUPRIの活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。皆様も同じ思いでおられるでしょうが、平成最後の日に市川浩一郎さんがお亡くなりになり、私も非常にショックを受けたわけであり、その後、緊急理事会が開かれ、私が理事長を任されることとなりました。前理事長から引き継いだ実績を無にすることなく、心を引き締めて任務を全うしたいと考えております。

思い起こせば、NUPRIが発足したのは1994年、長野五輪の4年前のことでした。初めて長野で開催されるオリンピックを前に、我々民間企業が支援しなければ骨があっても肉がない状態になるのではないかと、まず決断したのが表彰式会場（セントラルスクエア）の確保でした。実はオリンピック開催後、数日は盛り上がり欠けていましたが、ガラリと様相が変わったのはスピードスケ-

ートの清水選手が金メダルを獲ってからでした。それで空気が一変し、長野市は国内外から訪れる人々で連日あふれかえり、大盛況のうちに幕を閉じたわけです。

会の発足以来、今年で25年。年号も令和に変わり、一つの節目となりました。そこで皆様にお願いがあのですが、来以降、NUPRIをどういう会にしていくなかの白紙の状態から考えていただきたいのです。極端なことを言えば、25年もやっただからこれで解散ということも含めて、ぜひ将来のNUPRIの姿を構想する一年にしたいと思っています。よろしくお願いいたします。



平成30年度事業報告・ 令和元年度方針発表

■観光母都市ながのの部会

パワースポットで観光振興

夏目副部長

「善光寺ゆかり、隠れたるパワースポットめぐり」事業の一環として、善光寺大本願とも連携し、知られていない善光寺の新たな魅力を発信していきます。それとともに、長野地域に点在する「山城」にも焦点をあて、多種多様なニーズの観光客を呼び込んで、長野での滞在時間の延長、リピーター客の増加を図り、長野市を起点とした広域観光の充実につなげる活動に取り組んでいきます。



■信州シルクロードを巡る旅

善光寺表参道に楽しさを創出

鈴木事務局次長



お客様の要望にお応えして、着物と女性に特化したイベント「花遊歩く牛に引かれて善光寺参り」を開催してきましたが、近年は着物のものとなる絹についての学びや信州紬の機織り体験など体験型イベントの希望が多くなったことから、本年は1泊2日の「信州シルクロードを巡る旅」を開催します。蚕都・上田や須坂を巡り、また長野中心市街地を学びのルートに組み込むことで、善光寺表参道界隈の伝統的町並みや雰囲気味わい、他で開催されるイベントに時期を合わせることで楽しさを創出し、リピーターを増やして地域の活性化、観光客誘致につなげていきます。10月19日・20日は「信州着物の日」として、あでやかな日にしたいたいと思いますので、皆様ぜひご協力をお願いいたします。

■ここ掘れ！長野調査隊

長野の隠れた魅力を調査・探索

竜野調査隊長

本事業の活動趣旨は、観光母都市ながの〃を目指すNUPRIとして、長野市内の隠れた魅力を再発見して、長野地域の多様な魅力を市民や観光客に発信することにあります。2017年度より開催している「橋シリーズ」が好評で、昨年も第2弾として県立歴史館の山浦学芸員を案内人に、「犀川に刻まれた災いと橋の歴史を訪ねる」をテーマに橋めぐりを企画しました。今年度は検討中ですが、今後とも引き続き、私たちが長年暮らしてきてよく知っているはずの長野地域の隠れた魅力スポットや歴史遺産をもう一度新鮮な視点で調査・探索し、長野地域の観光振興の一助としていきたいと考えております。



■中心市街地活性化活動

歩きたくなる街、参加したくなる街へ

清水理事

現在、「ここ掘れ！長野調査隊」や「花遊歩」とも連動した「歩きたくなる街」を中心テーマにおき事業を進めております。また、上信越道須坂長野IC北側、上信越道更埴IC西側、権堂イトーヨーカドー一帯に大型商業施設の計画が浮上しており、加えてもんぜんプラザの老朽化等、いろいろな課題も頻出しております。NUPRIとしても専門家との話し合いの場を設け、行政や長野商工会議所、まちづくり長野等へ意見具申や提案をしていきたいと考えております。

■わいがやサロン活動部会

好評ジャズナイトを冬も開催

岩野部会長

わいがやサロンの開催は、すでに72回を越え、回を重ねるごとに中身が充実し、会員にとっても有意義な勉強の場となっております。今年の冬には、好評だった春の開催に続いて冬のジャズナイトを企画しています。皆様には、「この人の話を聴きたい」「ニュースで話題の人」など、サロンの講師として呼んでほしいという方がおりましたら、ぜひ部会事務局までご一報いただければと思います。



■新産業創出部会

連携の力で後継者問題にも取り組む

竹内部会長

グランドハイッツ表参道式番館プロムナードで毎週月曜日に開催している「採れたて野菜市」は今年で13年経ち、生産農家と近隣地域住民をつなぐ場として、また観光客にも立ち寄っていただく場として定着しています。スーパーマーケットとは違う朝採れの新鮮さ、露地栽培ゆえの季節感を強くアピールし、販売強化



に取り組んでまいります。

りんごの木オーナー制度は今年で20回目を迎えます。昨年11月の収穫祭では、県内外から約80名の方にご参加いただきました。さらに宮本さんが作る「三水米」の販売も継続して行う予定です。29年度には、農業法人も立ち上げており、後継者問題や地域の活性化につなげていきたいと考えています。

■スポーツ振興部会

●AC長野パルセイロ及びレディースチーム支援活動

優勝、そしてJ2昇格を目指して

鷺澤部会長



AC長野パルセイロについては、なかなか良いご報告ができなくて恐縮なんです。今年度こそはJ3優勝を目指し、チーム一丸となって戦っていきますので、ぜひ長い目で見ていただきたいと思います。レディースチームでは、日本代表の横山選手をはじめ

高校生も多く入部しましたので、一段の活躍を期待しているところです。『スポーツが街を、人を元気にする』というスローガンのもと、NUPRIも全面協力して盛り上げたいと思っておりますので、引き続きご支援のほどお願いいたします。

●地域野球クラブ「信越硬式野球クラブ」の応援活動

都市対抗野球大会へ出場

岩井会員

社会人野球の強豪チームである「信越硬式野球クラブ」は、平成30年度も「第89回都市対抗野球大会」に出場しました。長野市から多くの方に東京ドームまで応援に駆けつけていただき、熱いご声援をいただきました。また、地域貢献活動の一環として、小中高校生を対象とした野球教室を7回実施、360名の参加者がありました。

■公開講演会開催事業

多彩な分野の方に依頼、見聞を広める

鈴木事務局次長

NUPRIでは、6月の定時総会、2月の全体懇談会において、年2回「公開講演会」を開き、当所の基本理念でもある地域活性化をテーマにした講師やその時々々の社会情勢等時宜にかなった旬の講師をお呼びして、長野地域の一般の皆様にもお声掛けを行って開催していきます。

NUPRI 講演会

夢があるから強くなる
リーダーのあるべき姿と

長野へのエール

(公財) 日本サッカー協会相談役 川淵三郎氏

講演会は一般公開で行われ、NUPRI会員のほか約200名の聴講者が集まりました。川淵氏は、Jリーグ創設に尽力されるなど、長年にわたり日本サッカー界の発展に貢献された功労者でもあります。講演会のはじめには、AC長野パルセイロへの叱咤激励の言葉もあり、時にはユーモアを交え、時には口角泡を飛ばさんばかりの熱の入った講演に会場は笑顔に包まれました。約90分の講演を抜粋掲載します。

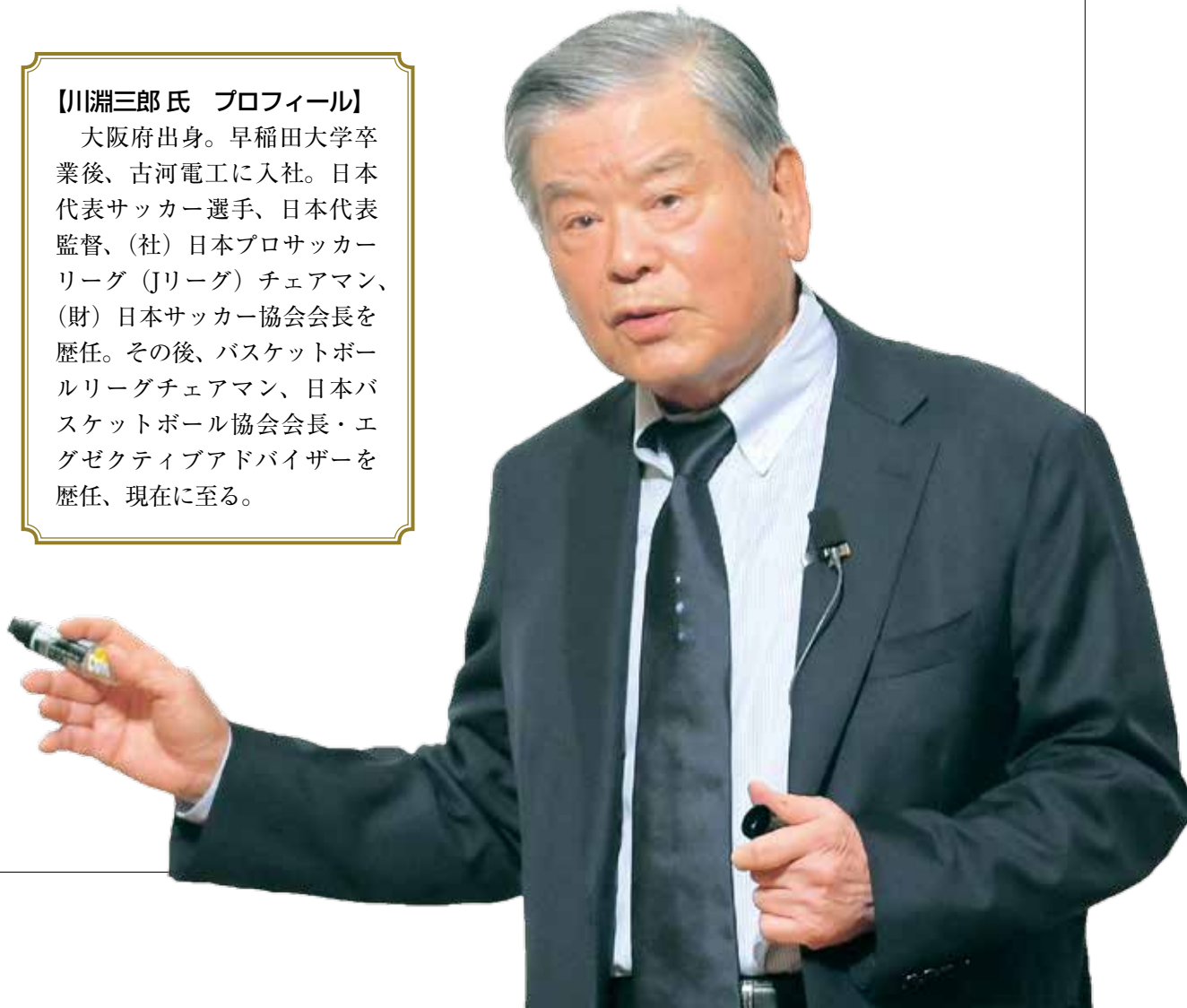
●人生のターニングポイントは51歳の左遷

皆様、日頃からAC長野パルセイロを応援いただき心から感謝しております。現在はJ3に所属しており、もう下に落ちる心配はないということですけど(笑)、そういつても話にならないので、今こそ地固めをする時期だと覚悟を決めて、絶対J2に上がるんだという強い意志をもって毎日の練習に真剣に取り組んでもらいたいと思います。

サッカー日本代表としてオリンピックに出場し、日本代表チームの監督、Jリーグの初代チェアマンも務めました。僕にとっての人生のターニングポイントは、1988年5月2日だと思っています。古河電工名古屋支店金属営業部長だった当時、

【川淵三郎氏 プロフィール】

大阪府出身。早稲田大学卒業後、古河電工に入社。日本代表サッカー選手、日本代表監督、(社)日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)チェアマン、(財)日本サッカー協会会長を歴任。その後、バスケットボールリーグチェアマン、日本バスケットボール協会会長・エグゼクティブアドバイザーを歴任、現在に至る。



古河産業への出向を突然命じられたのです。それは左遷を意味することで、大変ショックなことでした。51歳で会社員としての限界が見え、残る人生をどうやって生きようかと思った時、サッカーから身を引いていた僕にJSL（日本サッカーリーグ）の総務主事になってほしいという依頼が飛び込んできたのです。その頃、JSLは、プロ化に向けて動き出していました。ならば、30年以上一生懸命にサッカーを続けてきたノウハウや人間関係を活かして役に立てることがあるんじゃないか、残りの人生をサッカーに捧げようと決心しました。

●サッカーで住みよいまちづくりを鹿島が起こした奇跡

当時、Jリーグに参戦するクラブは10チームと決まっていました。日本各地から20ものクラブが名乗りをあげ、9チームが選出されました。さて残る1チームはというと、これが難航しました。その中に、鹿島アントラーズの前身の住友金属工業があったんです。しかし、住金は実力不足のうえに集客の見込みもない。当時の鹿島町長が陳情に来た時に、「申し訳ないけど、99%可能性はありません」と言ったんです。そうしたらパッと顔が明るくなって、「1%の可能性はあるんですね」と言う。そこで、さらに

無理難題を押し付けました。屋根付きの1万5千人収容できるサッカー専用スタジアムが造れるなら考えましよう。ハードを造るには、お金も時間もかかります。でも、住金も鹿島町も本気だった。本気でサッカー専用スタジアムを造ってしまった。このときの情熱がなければ、Jリーグでの優勝回数20回という素晴らしいクラブは存在しなかったわけです。

鹿島アントラーズには、サッカーを通じて住みよいまちづくりに貢献したいという理念がありました。だから、ボランティアの募集をかけると500人もの有志がすぐ集まった。今、日本のサポーターのマナーの素晴らしさが世界中で絶賛されていますが、その基盤を作ったのは鹿島のボランティア活動だと僕は思っています。



●VWで人生を成功に導く

僕は、人生において大きな理念とビジョンを持つことが大事だと思っています。ビジョンとは、なんなのか。

ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥さんには、ビジョンに関するこんなエピソードがあります。アメリカの研究所にいたとき、研究所長から「あなたのビジョンは、なんですか」と尋ねられたそうです。そこで彼は、アメリカでいい研究をして論文を書き、偉くなって教授になりたいんですと答えた。すると「それはビジョンではない、ビジョンを達成するための手段だ」と言われてしまった。所長はさらに、成功するための秘

訣、VW (vision and work hard) を教えてくれたそうです。そこで彼はやっと気がついて、医学では治せない患者さんのために、自分は研究者になったんだと思いつくことができた。

僕自身がいつビジョンを持ったかという、1988年5月2日、残りの人生を賭けて誰かの役に立ちたいと初心に返った時でした。年齢は関係ありません。皆さんも日々ビジョンを持ってハードワークに取り組み、人生を切りひらいていってほしいと思います。

